

## 山行報告書

受付 No.	262	登山地・ルート	聖岳
目的	歩行トレーニング		
メンバー	大山		
行動記録			

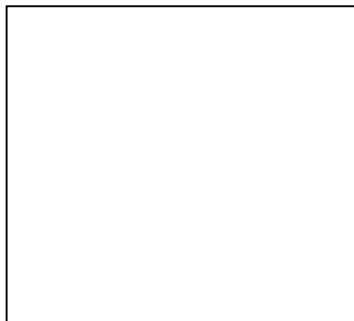
月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
10・28・日	晴れ	浜松＝便ヶ島P～西沢渡～薊畑分岐～小聖岳～前聖岳～薊畑分岐～西沢渡～ 7:23 7:55-8:27 11:19 12:12 13:16 14:22 16:08 便ヶ島P＝浜松 16:47

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

家で仮眠を取って出ようとしたら寝過ぎた。登山口が分からないので、ナビ任せで走ったら、佐久間ダムの方へと導かれ、廃道寸前の林道をのろのろと走りさらに時間をロスする。便ヶ島への林道にはひと抱えもあるような落石が道の真ん中をふさぎ、車幅ぎりぎりで通過する(帰りには撤去されていた)。予定よりも1時間以上登山口からの出発が遅れてしまう。西沢渡では、前日の台風の影響か沢の水量が多かったが、荷物渡し籠には乗っても動かせないと思い込み、裸足で渡渉を試みる。水の冷たさに耐えて水流に足を入れたら、膝まで一気に沈み、まくったズボンが濡れる。これは無理だと思い、渡渉点を探してうろうろ。そのうち足が滑って水の中に尻もちをついてズボンと上着を濡らす。「敗退」の二文字が頭に浮かぶが、最終手段として籠に乗る。案外あっさり動かせた。こんなことでまた30分ほどロスした。気を取り直して、西沢渡から樹林帯を3ピッチで薊畑分岐に着く。手前の急登がきつかった。雪があると思って、冬の本気靴を履いてきてしまったが、雪はなく、もったいなかった。山頂に、13時半までに着かなかつたら引き返すと決めて先へ進む。小聖には意外にあっさり着いてしまったが、前聖は手ごわく、広大な斜面を見上げて何度も足を止めた。前聖の上りから、解け残りの雪がちらほらと見え始め、山頂直下は登山道にも部分部分に雪が残り、今シーズン初の雪を踏む。山頂もまだらに雪が残っている感じで、冬の装備は全く必要なかったが、山頂から見る赤石岳と塩見岳は、白く雪をまとっていた。奥聖はパス。下りは固い冬靴で足が痛くなり、西沢渡までよれよれで下る。籠を引っ張るのが本当にしんどかった。ちなみにこの籠は、疲労とは関係なく、便ヶ島側⇒聖側のほうが引きやすいと思った。

《自然保護の視点》

▼登山道に案内標識がほとんどない。赤テープと、ときどき標識がある程度。▼特に樹林帯で、登山道が複数できていた。おそらく、積雪期に入った人がショートカットしたときにできた踏み跡をその後の人々が踏んで道になったものと思われる。積雪期といえど、雪が少なくなったら登山道を歩くのがベターと思う。▼ゴミは少なかった。



紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者
-----	----	----	----	---	---	---	-----